

Q：帯状疱疹ってどんな病気？

A： 帯状疱疹は身体の中に潜んでいたヘルペスウイルスの一種、水痘・帯状疱疹ウイルスによって起こります。水ぼうそうにかかったことがある人なら、誰でも帯状疱疹になる可能性があります。

*水ぼうそうと帯状疱疹の関係

- はじめて水痘・帯状疱疹ウイルスに感染した時は、水ぼうそうとして発症します（初感染）。
- 水ぼうそうが治った後も、ウイルスは体内の神経節に潜んでいます（潜伏感染）。
- 加齢、ストレス、過労などが引き金となってウイルスに対する免疫力が低下すると、潜んでいたウイルスが再び活動を始め、神経を伝わって皮膚に到達し、帯状疱疹として発症します（再帰感染）。

Q：帯状疱疹の症状は？

A： 身体の左右どちらか一方に、ピリピリと刺すような痛みと、これに続いて赤い斑点と小さな水ぶくれが帯状に現れます。水ぶくれの大きさは粟粒大～小豆大で、ウイルスが原因となる水ぶくれの特徴として中央部にくぼみが見られます。皮膚と神経の両方でウイルスが増殖して炎症が起こっているため、皮膚症状だけでなく強い痛みが生じます。

Q：合併症は？

A： 一般的な合併症として、発熱や頭痛がみられることがあります。顔面の帯状疱疹では、角膜炎や結膜炎などを起こすことがあります。耳の周辺に現れた場合は、耳鳴りや難聴を伴い、顔面神経麻痺を生じることがあります（ラムゼイ・ハント症候群）。

Q：気を付けるべき後遺症は？

A： 通常、皮膚症状が治ると痛みも消えますが、その後もピリピリするような痛みが持続することがあります。これを帯状疱疹後神経痛といいます。これは急性期の炎症によって神経に強い損傷が生じたことによって起こります。次のような場合、帯状疱疹後神経痛が起こりやすいので注意が必要です。

①高齢者 ②皮膚症状、痛みともに急性期の症状が激しいとき ③体力が落ちているとき など

Q：帯状疱疹の治療は？

A： 治療の基本は抗ヘルペスウイルス薬です。一般に使われているのは内服薬ですが、重症の場合には入院して点滴をすることもあります。抗ヘルペス薬はウイルスの増殖を抑えることにより、急性期の皮膚症状・痛みなどを和らげ、治るまでの期間を短縮します。さらに合併症や後遺症を抑えることも期待されます。発病早期に服用を開始するほど治療効果が期待できます。

Q：帯状疱疹は他の人へうつりますか？

A： 触って他の人にうつることはありません。ただし、水ぼうそうにかかったことがない乳幼児には、帯状疱疹としてではなく、水ぼうそうとしてうつることがあります。



狩野先生から
ひとこと

皮膚科 部長
かのう としゆき
狩野 俊幸 先生

帯状疱疹は早期に適切な治療を行うことで、症状を軽くし、合併症や帯状疱疹後神経痛のリスクを減らすことができます。帯状疱疹かなと思ったら、早めに医師にご相談ください。

